

阿仏房御書

（宝塔御書）

御書新版 1732字 10行目〜12行目
御書全集 1304字 6行目〜8行目

末法に入つて法華經を持つ男女のすがたより外には宝塔なきなり。もししからば、貴賤上下をえらばず、南無妙法蓮華經とななるものは、我が身宝塔にして我が身また多宝如来なり。妙法蓮華經より外に宝塔なきなり。法華經の題目、宝塔なり。また南無妙法蓮華經なり。

通解

末法に入つて、法華經を持つ男女の姿よりほかには宝塔はない。もしそうであるならば、貴賤上下にかかわらず、南無妙法蓮華經と唱える人は、わが身がそのまま宝塔であり、わが身がまた多宝如来なのである。妙法蓮華經よりほかに宝塔はないのである。法華經の題目は宝塔である。宝塔はまた南無妙法蓮華經である。

語句

宝塔

宝物で飾られた塔。法華經見宝塔品第11では、釈尊の法華經の説法が真実であると保証するために、多宝如来が中に座す。宝塔が、大地から出現して囑累品第22まで虚空に浮かんでい

多宝如来

法華經見宝塔品第11で出現し、釈尊の説いた法華經が真実であることを保証した仏。

中に浮かんで、虚空会の儀式が展開された。